

全国協議会 ニュース

2021年2月1日発行 第342号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

全国協議会第11期役員選考告示

全国協議会の第11期役員選考に関して、田中重勝理事長より7名の役員選考委員が委嘱され、第1回役員選考委員会が2020年12月1日(火)に開催されました。互選により野村正満氏が委員長に選出され、選考日程、告示方法等が検討され、1月18日(月)に第1回告示が行われました。

2021年1月18日

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 第11期役員選考のための第1回告示

各位

役員選考委員会
委員長 野村正満

1. 役員選考委員会

委員長：野村正満
委員：大谷貴子、笠原慶一、菅早苗、三瓶和義、水谷久美、上江洲富夫

2. 役員の任期

2021年7月1日～2023年6月30日

3. 役員の種別と員数

会長1名、副会長3名、理事14名(正会員の推薦を要する理事：全国区3名・各地区8名、推薦を要しない公募理事：3名)、理事の地区定数(北海道1名、東北1名、関東甲信越2名、東海北陸1名、近畿1名、中四国1名、九州1名：計8名)

監事2名

4. 役員選考日程

●第1回告示

2021年1月18日(月) ホームページに役員選考告示を掲載

(全国協議会ニュース2月号にも掲載)

* 役員推薦書、公募理事の立候補届などの配布

役員推薦書、立候補届の受付開始

2021年1月25日(月)

役員推薦書、立候補届の締め切り

2021年3月1日(月) 必着

●第2回告示

2021年3月22日(月) ホームページに役員選考結果を掲載

(全国協議会ニュース4月号にも掲載)

全国骨髄バンク推進連絡協議会総会

2021年5月30日(日) 役員選任

5. 認定特定非営利活動法人の役員条件について

特定非営利活動促進法第47条の定めにより、次の①から⑤のいずれかに該当する方は、役員に就くことはできません。

以上

<連絡先・書類送付先：役員選考委員会事務局>

〒101-0031 千代田区東神田1-3-4 KT ビル3階 全国骨髄バンク推進連絡協議会内

コロナ禍ですが、献血・骨髄バンク登録は不要・不急の外出ではありません。
一人でも多くのご協力を!

「どりサポ」へのご支援に感謝

「どりサポ」のクラウドファンディング「パパやママになる幸せを白血病患者と家族に」は、2020年9月27日(日)～12月25日(金)の90日間に35名の方から395,980円のご寄付を頂きました。ご寄付頂いた方、サポーターの上原浩治様、山田幸代様、キャプテンのノブ・ハヤシ様、所属団体ドージョーチャクリキの甘井もとゆき社長、道場の皆様はじめご支援いただきました方々に感謝申し上げます。

知ろう。一緒に、 『AYA week 2021』

「若い世代とがん」の今を、世の中に発信していく『AYA week』が3月に開催されます。

医療従事者の皆さんだけではなく、職業も、年齢も、性別も、関係なく全国のサポーター達(= AYA メイト)が、がんの正しい理解や若いあなたの未来を願い、いろいろな企画を通じて、AYA 世代とがんの今を発信していきます。詳しくはホームページをご覧ください。

▶▶▶ <https://ayaweek.jp/>

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMJP(1月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2020年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,876	2,734	529,140	847,373
患者登録者数	226	209	1,863	60,831
移植例数	89 (17)	93 (28)	—	25,039 (1,150)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■12月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/686人、献血併行型集団登録会/1,995人、集団登録会/0人、その他/53人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,974人/20代 83,204人/30代 137,281人
40代 223,380人/50代 82,301人

■12月の20歳未満の登録者210人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,104件(国内ドナー→国内患者)

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

追悼 浅野茂隆先生

浅野茂隆先生が2020年8月12日、77歳で逝去されました。浅野先生は、重症血液疾患患者の救命と医療発展のために、あらゆる困難や障壁にひるまず、果敢に挑戦を続けてこられました。その一方で患者・家族には、いつも温かな眼差しと励ましを送られ、ボランティア活動に多大なご支援をいただきました。ここにその名を深く胸に刻み、心からの感謝を申し上げます。



全国協議会メンバーとディスカッションする浅野先生：写真中央(1996年10月、菅平高原のペンションで)

偉業と功績の数々

昨年11月、奥さまからの喪中がきが届きました。8月に浅野茂隆先生が亡くなられたとのこと、ショックでした。春頃に、容態が芳しくないということは伝聞していました。新型コロナウイルスで誰もが行動を自由にとれぬ状況でそのままになっていましたが、まさかあの熱血漢の先生が……やりきれぬ想いで呆然とし、先生との長いおつきあいが次々とよみがえってきました。

・骨髄移植と骨髄バンク

1980年代、浅野先生は東京大学医学研究所附属病院に無菌病棟を整備し、学閥にとらわれず全国から優秀な移植医を集めて、積極的に骨髄移植に取り組み始めました。同時に公的骨髄バンクのスタートにも尽力され、初代の中央調整委員長としてリーダーシップをとりました。また、さい帯血バンク事業の開始にも力を注がれました。当初、小児が対象だったさい帯血移植を成人にも初めて行い、その素晴らしい移植成績は世界から注目されました。

・学会とボランティア

日本で骨髄移植のパイオニアだった故服部絢一先生(金沢大教授・全国協議会顧問)たちが始めた骨髄移植研究会は浅野先生たちにより大きく成長し、1996年に造血細胞移植学会となる際にも浅野先生は「この学会は医者たちだけの学会じゃない、移植にはドナーが

必須、だからコーディネーターやボランティアにも参加してもらいたい」と語っていたのを思い出します。先生はボランティアとは言わず、いつもボランティアと発音していました。

・浅野先生と全国協議会

私たち全国骨髄バンク推進連絡協議会(全国協議会)の運営にも少なからぬお力添えをいただきました。一般市民を対象にした普及啓発や、国際協力など骨髄バンクが抱える解決すべき課題、さい帯血バンクなど新たな事業展開等のイベントにも積極的にご協力をいただきました。法人化する前の全国協議会は、運営委員会を全国各地で開催していましたが、1996年秋には菅平高原で研修会を兼ねて行った際には浅野先生も駆けつけ(写真)、夜を徹して骨髄バンクの将来像を熱く語り合ったことも忘れられない思い出です。

25年前の「白血病フリーダイヤル」開設でも相談員(医師)のシフトを浅野先生にお願いし、現在も続いています。そのフリーダイヤルから生まれたハンドブック「白血病と言われたら」は昨年第6版を発行しましたが、初版から第5版までの監修を引き受けていただきました。執筆者の指名なども先生のご尽力によるものです。

・G-CSFの開発

臨床医としての活躍にとどまらず、先生は研究分野でも大きな業績を残しました。血液疾患患者のほとんどがお世話になっているG-CSF(顆粒球コロニー刺激因子)は遺伝子組み換えで浅野先生が研究開発、医薬品化したものです。いまでは末梢血幹細胞移植ではドナーにも投与され、多くのがん患者が化学療法にともなう白血球減少対策で使われている不可欠の治療薬です。

・衰えぬチャレンジの意欲

造血細胞移植の範疇から踏み出し、遺伝子治療の先駆者となるなど、常に

その視線は生命科学の最先端を向いていました。附属病院長、先端医療研究センター長など拠点とした東大医科研を退官した後は早稲田大学招聘教授として、また理化学研究所や神戸大学と精力的に活動されていました。東日本大震災後は病院船のために意欲的に動いておられました。「平時は港で病院として活動して、事あらば世界中どこにでも駆けつけるんだ」とエネルギーギッシュに語っていました。歴史に名を残した浅野茂隆先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(全国協議会副会長 野村正満)

おもいだすこと、



浅野先生が描かれた桜の絵

2020年8月12日の早朝、浅野茂隆先生がお亡くなりになりました。

1985年の秋にまだ学生であった私がアポなしで医科研を訪問した際にはあいにくご出張でお会いできません

ので、浅野先生と最初にお会いしたのは、1986年の春でした。東京の某病院の研修医になることが決まっていた私は、そこでの2年の研修期間の終了後に、是非、医科研に入れて欲しい、とお願いに伺ったのですが、答えは、NO、でした。しかし付け加えて、「2年後はだめだが、今ならば考えてやる」と言われました。3日間悩みましたが、入れてください、とお願いに再訪したのが、その後の35年間の始まりでした。古いくすんだ医科研1号館の中の病院は、施設も設備も研修を予定していた病院とは雲泥の差で古臭いものばかりでした。ただ、スタッフ、職員は、意気軒高で、その中で最も精力的であったのが、その頃はまだ40代前半の浅野先生でした。医科研の初日に、そのころ麻布十番の近くにあった小さなステーキハウスに、食べ放題だぞ! と嬉しそうに連れていってもらいました。私も食べるのは早い方でしたが、私が1枚食べ終わるころに浅野先生は2枚ペロっと平らげ、他の人たちはまだ1枚の半分しか食べ終わって

おらず、しかもほとんどしゃべっているのが浅野先生で、口が2つあるのかしら、と不思議に思ったことを思い出します。とにかくステーキは好物で、そのお店には何度か訪れ毎回たいい3枚は召し上がっていましたが、その後すぐに「食べ放題」のメニューはなくなり、浅野先生のせいで、と皆で言ったものでした。

その頃、先生は常に研究室あるいは病院におられて、夜遅くに病棟でカルテを確認し翌朝の回診で担当医に鋭い質問をするようなこともしばしばでした。眼光が鋭く、正面に相対して話そうとすると、最初のうちは声も出すが辛いくらいの威圧感がありました。一方で、研究室で実験の合間に、ふざけて同僚の医師に石鹸を食べさせようとしたり、その頃は実験に使用する骨髄細胞を確保するために同僚とお互いに骨髄穿刺(マルク)をやりあうことがあったのですが、先生はわざと麻酔が効いていない場所に針を刺し、「麻酔がどんなに大切か、わかっただろう」などと言われたり、今の時代からはとんでもないようなことでしたが、皆若く、我々の絆は一層深まりました。しかし、指導は厳しく、学会の発表準備の際には浅野先生が納得するまで終わることができず深夜に至ることもしばしばで、本番よりも研究室での予演会

の方が皆、緊張したものです。また、私は数年間、浅野先生の外来の助手として同席していた時期があり、診療時間が終わった後に患者さんの悩みを聞いたり、時には一緒に心電図を担いで患者さんの自宅まで往診に行ったり、言葉でよりも診察の際の心構えを態度で教えて頂きました。我々には厳しいことが多かった浅野先生ですが、進路に悩んでいた、体調を崩したりしたスタッフには、患者さんに対するときと同じような優しい心遣いを見せてくれたこともありました。

先生は常に俯瞰的に方向性を定めてブレずに突き進む、その迫力は近くにいっても見事なものでした。日々の診療や様々な研究成果の他に、骨髄バンクや臍帯血バンク、病院船プロジェクトなどに関する社会活動などで、日本のみならず世界に貢献なさった浅野先生は、約10年近くお勤めになられた病院長職を最後に医科研から退官され、2004年に早稲田大学に研究の場を移されました。その後も、様々な研究、活動をお続けになられました。相変わらず壮大な構想を基にした計画が常に先生の頭の中にあり、その達成に向けた緻密な計画書をいつもカバンに入れてながら飛び回っておられました。最後の最後まで、未だ完結していないお仕事のことを考えながら、ご自身の体調

は二の次になさって、慌ただしく旅立ってしまわれました。本当に残念でした。ありがとうございました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。
(東京大学医学研究所血液腫瘍内科 准教授 高橋聡)

「がんノート」のご紹介



「がんノート」は、「あなた」か「わたし」のがんの話しようをテーマに、がん経験者へのインタビューをインターネット生配信するNPO法人です。2014年からこれまでに200人程のがん経験談の配信を行いました。

自身や身近な人ががんになった時、医療情報は医師や看護師から得られるし、患者側からも質問できますが、一歩踏み込んだ生活情報(お金、仕事、家族や恋人との関係等)はなかなか知ることができません。代表の岸田徹はどうやって知れば良いのか?と考えると、世の中に情報がないなら経験者から聞けばいいとがん経験者にインタビューすることを始めました。笑いを交えたぶっちゃけトークの形で、何でも訊いて話していこうというのが、「がんノート」のスタイルです。

コロナ禍においてはみんなの集まれる場所を作りたいという想いから、2020年4月~5月に6週連続でインターネット生配信を行うというチャレンジを行い、多くの方にご好評いただきました。2020年6月からは、毎週木曜夜9時よりインターネット生配信で視聴者の皆さんとも交流しながら「がんノート night」という、ゆる〜く楽しいトーク番組も行っています。

「がんノート night」の各回のテーマは、「筋肉/運動」、「ウィッグ」、「職場へのカミングアウト」、「Quality of Life」など様々で、気軽に楽しんでいただきつつ得るものもある、そんな番組を目指しています。

(NPO 法人がんノート 佐藤由紀)

令和3年度移植医療関係予算
着実な事業推進に期待

厚生労働省は、「移植医療体制の整備や治療成績の向上を図るとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤(バンク)の安定的な運営を支援する。」として、令和3年度政府予算案に本年度と同額の総額24億3000万円を計上しました。また、令和2年度第三次補正予算に、支援機関(日本赤十字社)に対して「ドナー登録やデータ管理・検索システム及びコーディネート迅速化のためのシステム更新費用」として、4億9000万円を計上しました。なお、全国協議会が要望していた、①「ドナー登録のオンライン化」(コロナ対策としても対面せずに行えるWEBでの登録手続き)、及び②「ドナー登録時のスワブ検査法の導入」については、すでに厚生労働省科学研究班(北海道大学・豊嶋崇紀徳教授)が調査研究を開始しており、早期導入が期待されています。

造血幹細胞移植医療対策関係予算総額
24億3000万円

- ・骨髄バンク運営費 4億9900万円
日本骨髄バンクへの補助金。安定的な運営のための支援。
- ・骨髄データバンク登録費 6億3600万円
日本赤十字社への補助金。骨髄等ドナーのHLA(白血球の型)の検査及びデータ登録・検索、データ管理等に要する経費。
- ・造血幹細胞提供支援機関事業 1億9200万円
日本赤十字社への補助金。支援機関としての運営経費を計上。
- ・臍帯血バンク運営費 6億2000万円
臍帯血供給事業者(臍帯血バンク)の安定的な運営のための支援。
- ・移植医療整備事業 4億200万円
全国9ブロックの造血幹細胞移植拠点病院(12施設)への運営補助金。
- ・患者・ドナー情報登録支援事業 7700万円
日本造血細胞移植データセンターの運営補助金。

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

兵庫

第4回播磨地区高校生バンドコンテスト



このコロナ禍の中、開催できるのか？開催していいのか？とずいぶんと悩みましたがその結果、決行するのはこびとなり12月26日(土)イーグレ姫路にて開催いたしました。最初出場校は7校でしたが2校は辞退され、5校が参加することになりました。開催にあたり入り口では必ず検温・消毒を完全に行い、演奏中も入り口の扉も開けたまま、マイクも演奏ごとに消毒をいたしました。

コンテストの結果は、姫路地区骨髄バンク賞→兵庫県立姫路工業高校、国際ソプロチミスト姫路賞→姫路市立琴丘高校、姫路さくらライオンズクラブ賞→兵庫県立龍野北高校、神戸新聞社賞→兵庫県立別所高校でした。生徒さんたちの元気な演奏と歌で私たちも元気をいただきました。

また、コンテスト審査中には、生徒55名が、三宅敬(ドナー登録説明員)の自作ビデオによる骨髄バンクの説明を聞き、少しは骨髄バンクを理解していただけたのではないかと考えております。

このコンサートは、国際ソプロチミスト姫路様、姫路さくらライオンズ様、姫路市様、神戸新聞社様と、またコンサートのプログラムの広告にご協力いただいております企業様のお陰をもちまして毎年開催することができております。来年も引き続き若い世代の人たちに少しでも骨髄バンクを知っていただく為に開催したいと考えております。

(姫路地区骨髄バンク推進センター 濱田恵子)

京都

福知山駐屯地での100リットル献血



1月7日(木)陸上自衛隊福知山駐屯地(京都府)で行われた献血は、「100リットル献血」と銘打たれ、2005年から開催されています。400ミリリットル献血250名分で100リットルを目指す駐屯地での一大行事です。今年は大変寒い日で、日中は雪がうっすらと積もる中、隊員279名が献血に協力し、100リットル以上献血がされ、目標達成となりました。

NPO法人 献血と骨髄バンクの和を広げる会では、献血併行型登録会の開催と併せて、献血後の隊員におぜんぎを提供する活動を続けています。2014年から今回までの8年間で、合計305名のドナー登録実績があり、今回の登録者数は31名。ほとんどが20代の若い隊員の方でした。コロナ禍で献血も骨髄バンクもドナーが減る中、今年も多くのご協力をいただき大変ありがたかったです。

(NPO法人 献血と骨髄バンクの和を広げる会 大畑江美)

献血・骨髄ドナー登録が不足しています！
新宿中央公園にご参集ください！

新型コロナウイルス感染拡大により

外出が規制され、献血・骨髄ドナー登録が減少しています。血液や骨髄を必要とする患者さんはコロナ禍に関係なく例年どおり発生しており、血液・骨髄が行き渡らなくなる重大な局面が間近に迫っています。例年、新宿中央公園では東京新都心ライオンズクラブと西新宿角三町会が主催し、「3.11を忘れない、防災フェア」イベントを実施していましたが、昨年・今年にはコロナ禍により残念ながら中止となりました。しかし今年には開催10周年の節目でもあり、献血や骨髄ドナー登録が不足している現状から、同クラブでは「献血&骨髄ドナー登録会」だけでも開催したいとの思いで関係各所に協力要請を行いました。その結果、東京都赤十字血液センターのご協力で献血バスの配車が決まり、日本骨髄バンクの協力も得て、「献血&骨髄ドナー登録会」を開催する運びとなりました。密を避けスムーズな対応を行うため、事前申し込みを受付し、時間調整をいたします。当日献血・骨髄ドナー登録にご協力いただける方は、全国協議会までご連絡ください。多くの方のご参集をお待ちしています！

●日 時：2021年3月7日(日) 10時~16時

●場 所：新宿中央公園 水の広場前 献血バス内

●主 催：東京新都心ライオンズクラブ

●問合せ事務局：03-5823-6360
全国骨髄バンク推進連絡協議会

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日~1月20日(敬称略)

●一般

三井化学株式会社ちびっとワンコイン	現金 200,000円
三井化学株式会社	現金 200,000円
株式会社エアネット	現金 536,200円
「ガロ」マイステージボックス (菅野、矢野、本田、道端、君和田、山口、稲坂、高村、松沢、鈴木)	現金 12,000円
塩谷 圭	現金 2,000円
藤波 敬子	現金 10,000円
ハヤシ タカシ	現金 10,000円
鈴木 海光	現金 6,000円
匿名	現金 10,000円
匿名	現金 6,000円
匿名	現金 30,000円

●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金

東京港南マリナーロータリークラブ	現金 96,608円
公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	現金 11,082円
及川 崇	現金 5,000円
●志村大輔患者支援基金	
山先 恵子	現金 20,000円
アオヤマ ナナ	現金 1,000円
築瀬 知雅子	現金 5,000円
庄子 敏子	現金 5,000円
●こうのとりマリン基金	
東京港南マリナーロータリークラブ	現金 100,000円
●募金箱	
株式会社マルト商事	現金 63,609円

菊水酒造株式会社	現金 417円
むさし野アンサンブルグループ	現金 10,278円
設計工房 夢家	現金 3,000円
有限会社さかえ薬局	現金 5,526円
イオン九州株式会社イオン都城店	現金 6,026円
コスモ石油労働組合	現金 2,935円
●つながる募金	
	現金 14,400円
●キモチと。	
	現金 17,394円
●どりサボ	
	現金 50,000円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会